

紙本墨書「伊地知貞馨書」修繕報告書

當間巧*1

I. はじめに

本作品は、一般財団法人沖縄美ら島財団の所蔵「伊地知貞馨書」である。修復前の作品は折れ、折れ山の擦れ、染み汚れ、欠失損傷が著しかった為、平成30年9月25日から平成31年1月31日、石川堂で修復を行った。

今回の修復では本紙の折れ、欠失箇所の修復後掛幅装に装丁した。

II. 作品の形状及び寸法

1. 本紙

- ①基底材 画仙紙
- ②寸法 修復前 丈 141.3cm 幅 47.1cm
修復後 丈 141.5cm 幅 46.8cm
- ③本紙枚数 1枚
- ④画材 墨・膠
- ⑤本紙の特徴 継ぎの無い1枚の画仙紙

2. 装丁

修復前

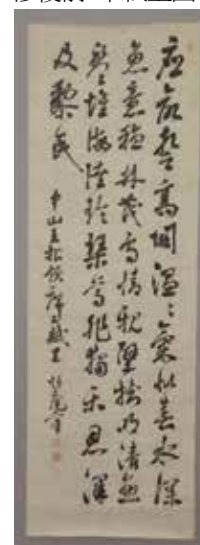
- ①装丁 装丁無し、本紙四方に継ぎ合されていた跡があり掛幅装が解体された捲りの状態。

- ②裏打ち紙 1層
肌裏紙・楮紙

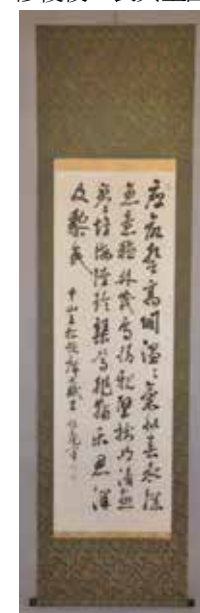
修復後

- ①装丁 掛幅装
- ②表具寸法 丈 223.9cm 幅 59.3cm
- ③表装形式 丸表具
- ④裏打ち紙 3層
肌裏紙・楮紙（新調）
増裏紙・美栖紙（新調）
総裏紙・宇陀紙（新調）
- ⑤表装裂 一文字・薄茶地牡丹唐草文金紗（新調）
上下柱・納戸地唐草文緞子（新調）
- ⑥軸首 紫檀頭切軸（新調）
- ⑦収納箱 桐太巻添軸桐印籠箱（新調）

修復前 本紙全図



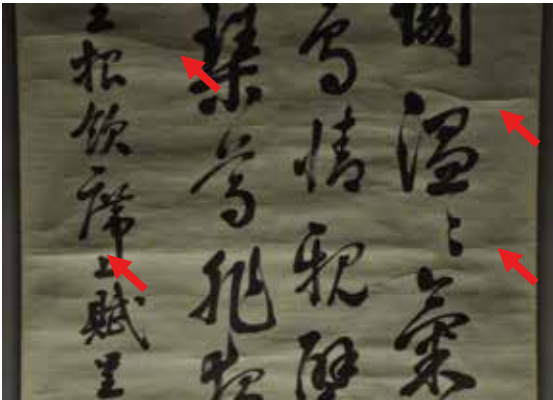
修復後 表具全図



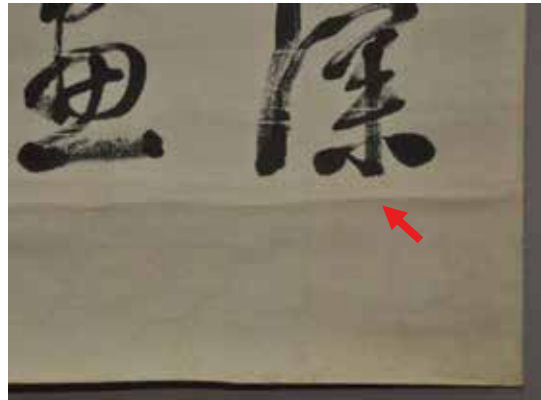
*1 石川堂 代表

III. 修復前の損傷状況

1. 本紙には強い横折れが生じていた。

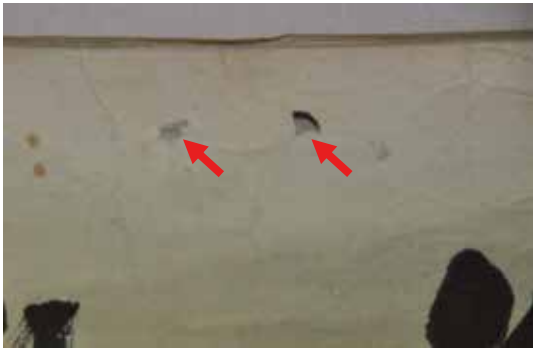


修復前 本紙中央部 折れが多数確認できる。
斜光線を当て、折れを強調。



修復前 本紙右下部 強い折れが確認できる。

2. 本紙に欠失箇所が見られた。



修復前 本紙上部 欠失箇所

3. 本紙には全体的に染み・汚れが見られた。



修復前 本紙右上部



修復前 本紙右中央部

IV. 修復方針及び概要

1. 実施の作業及び方針の決定・変更等は、首里城公園管理部の本件担当者と協議・監督の下進める。
2. 墨の剥落止めを行う。

本紙の状態を調査した結果、書かれた墨の状態は良好であった。剥落止めによる過度な膠投与は、墨又

は料紙の硬化を招く結果となる為、今回の修復では剥落止めは行わない事とした。

3. 汚れの除去作業を行う。

本紙全体を加湿し、水分に汚れ等が溶け出した後、本紙表裏に吸水紙を置き、吸水紙に染み・汚れを移し除去した。

4. 本紙の欠失箇所に適する補修紙で繕いを施す。

補修紙は、「宣紙」を選定した、使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用いた。

5. 本紙の折れが生じている箇所、及び今後明らかに生ずると思われる箇所に、伝統的な修理方法である折れ伏せを入れる。

6. 表装裂を新調する。

新調する表装裂に関しては、首里城公園管理部の本件担当者と協議し下記の表装裂を選定した。

一文字・薄茶地牡丹唐草文金紗 総縁・納戸地唐草文緞子

7. 軸首、鐙、八双、軸木、掛け紐等を新調する。

8. 桐太巻添軸桐印籠箱、白絹帛袱紗を新調する。

収納保存にあたっては太巻添軸に添えて巻き、折れ破損の要因を軽減した。

V. 修復工程

1. 修復前に写真撮影を行い、本紙の状態を調査した。

2. 濾過水を用い本紙表面に表打ちを施し、旧裏打ち紙を捲り取った。



修復中 裏打ち紙除去作業

3. 本紙汚れの除去を試みた、作業は本紙を傷ない範囲にとどめた。

4. 本紙の欠失箇所に補修（繕い）を施した。補修に使用する紙は風合い・質感などの点から、宣紙を使用した。使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用い、糊は小麦粉澱粉糊（新糊）を使用した。



修復中 本紙補修作業

5. 新糊を用い、美濃紙（長谷川紙）で本紙の肌裏を打った。肌裏紙は天然染料（矢車）で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用いた。糊は（新糊）を使用した。



右：修復中 本紙の肌裏打ち作業

6. 新調した表装裂に適する色調に染色し新糊を用い美濃紙（長谷川紙）で肌裏を打った。糊は（新糊）を使用した。



右：修復中 表装裂の肌裏打ち作業

7. 本紙、表装裂に美栖紙を使用し増裏を打った。糊は古糊を使用した。裏打ち後、仮張りを施した。



右：修復中 本紙の増裏打ち作業

8. 本紙の横折れが生じている箇所、今後明らかに生ずると思われる箇所に折れ伏せを施した。折れ伏せ紙は美濃紙（長谷川紙）用い、糊は新糊を使用した。



右：修復中 折れ伏せ入れ作業

9. 本紙と表装裂を「丸表具」に付け廻した。

右：修復中 付回し作業



10. 古糊を用い宇陀紙で総裏を打った。裏打ち後、仮張りを施した。

右：修復中 総裏打ち作業



11. 鐙、軸首、八双、軸木、掛け紐等を新調した。

12. 十分に乾燥させた後、表具に仕上げた。

右：修復中 仕上げ作業



13. 桐太巻添軸桐印籠箱を新調し、紙帙を製作後、表具を白絹帛袱紗に包み印籠箱に収納した。

右：桐太巻添軸桐印籠箱



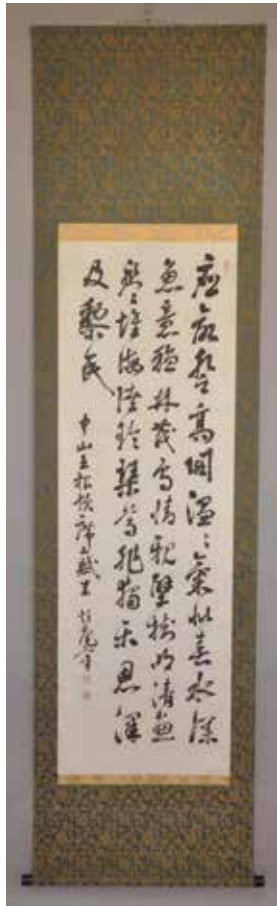
14. 修復後の写真撮影・報告書を作成した。

VI. 修復前後の状態

1. 表装裂

修復前は掛幅装が解体され1層旧裏打ち紙が残されている状態であった。

修復後は上下・柱に納戸地唐草文緞子、一文字には薄茶地牡丹唐草文金紗を新調し丸表具に仕立てた。一文字に使用した裂地は天然染料染料(矢車)を用いて染色し、水酸化カルシウム溶液で色素を固着させ使用した。



修復後 表具全図



修復後 上・一文字の様子

2. 軸首

修復後の軸首は、首里城公園管理部の本件担当者との協議、全体との調和を考慮した結果、「黒檀頭切軸」を使用した。

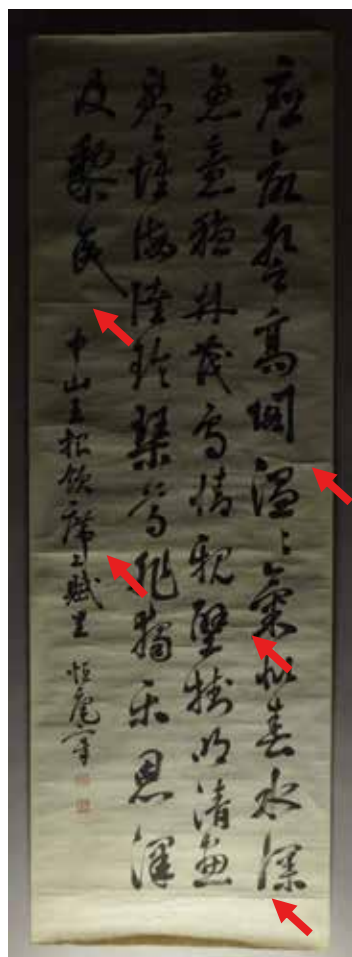


右：新調した黒檀頭切軸首

3. 本紙の折れ

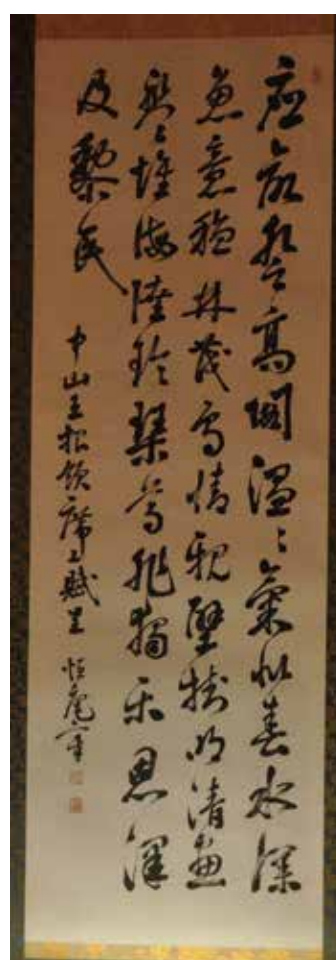
斜光線を照射して、修復前後の状態を比較する。

修復前

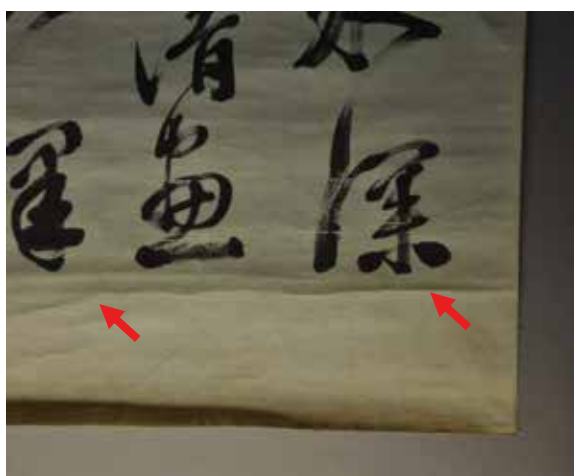


折れが多数確認できる

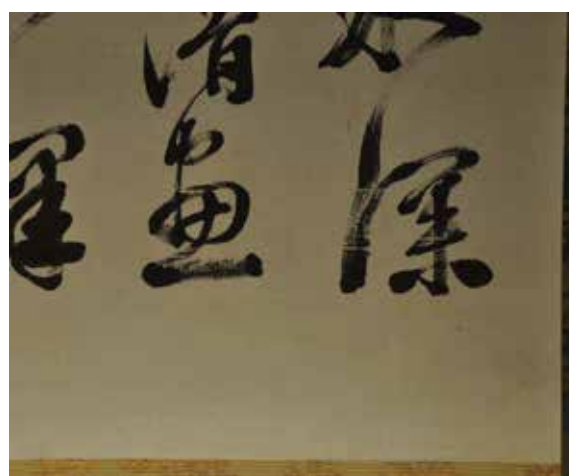
修復後



折れが収まり平滑な本紙面



修復前 本紙右下部 強い折れが確認できる



修復後 本紙右下部

4. 本紙の欠失箇所

本紙の欠失、欠損箇所に補修（繕い）を施した。補修に使用する紙は風合い質感などの点から、宣紙を使用した。使用に当たっては天然染料矢車・墨で染色、水酸化カルシウム溶液で媒染後用い、糊は（新糊）を使用した。



修復前 本紙上部 欠失箇所



修復後 本紙上部 欠失箇所

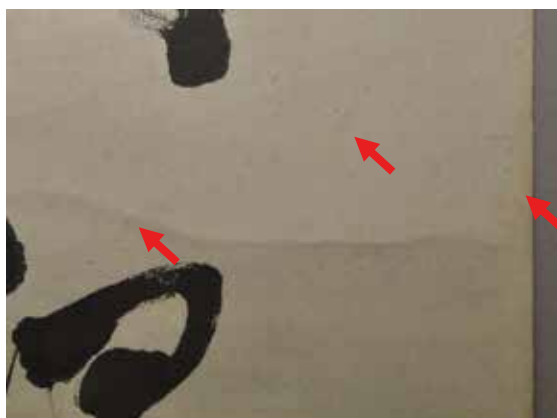
5. 本紙の染み・汚れ



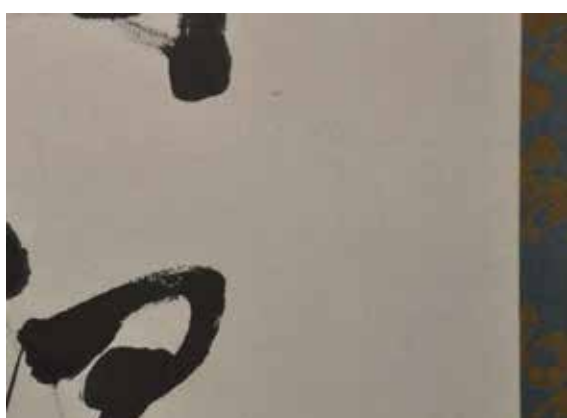
修復前 本紙右上部



修復後 本紙右上部 染み・汚れが緩和した



修復前 本紙右中央部

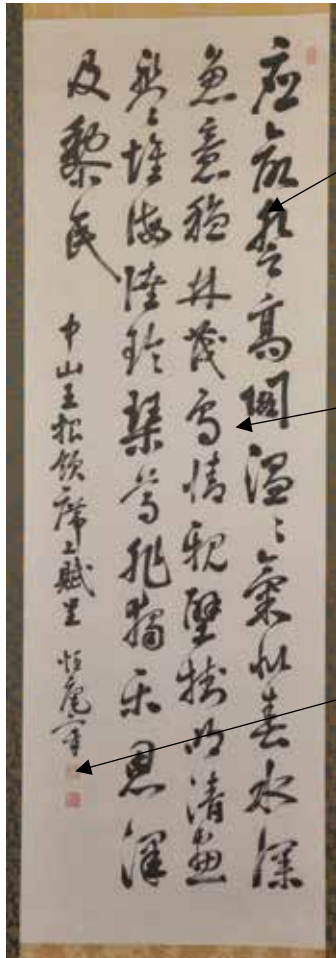


修復後 本紙右中央部 染み・汚れが緩和した

VII. 作品の技術分析

1. 顕微鏡撮影

本紙の顕微鏡撮影を行った。撮影は修復後、本紙の安定した状態で実施した。



墨文字 墨



本紙 料紙



朱印 朱

VIII. 修復諸資材

1. 接着剤

①新糊（中村糊店・京都府京都市下京区）

原材料は小麦粉澱粉。水によく沈殿させ煮出した後、糊化したものを使用する。
肌裏打ち・折れ伏せ入れ等各所に使用。

②古糊

原材料は小麦粉澱粉。新糊を瓶に入れ5年程鍾乳洞にて保存したものを使用した。新糊に比べ接着力は劣るが、柔軟性を与え保つ事が出来る。「打ち刷毛」という特殊な表具用刷毛を使用し裏打ちを行う。
増裏打ち・総裏打ちに使用。



2. 染料

①天然染料 矢車（中村長商店・京都府京都市中京区）

原材料はカバノキ科ハンノ木属夜叉五倍子の果実。果実を水で煮出した後の染料溶液を使用する。

本紙肌裏紙、補修紙、裂地の染色に使用。



3. 紙

①美濃紙 長谷川紙（長谷川和紙工房・岐阜県美濃市）

原材料はクワ科の楮。中でも国内産那須楮白皮を使用した手漉き和紙。薄く強靱で長期の保存に耐える。本紙、表装裂の肌裏紙・折れ伏せ紙に使用。

②美栖紙 白雪（昆布尊男製・奈良県吉野群吉野町）奈良県指定伝統工芸品

原材料クワ科の楮。紙漉きの際、古粉（炭酸カルシウム）を添加する表具用手漉き和紙。薄く柔軟性があり、古糊と合わせて使用する。増裏紙に使用。

③宇陀紙 福虎（福西弘行製・奈良県吉野群吉野町）奈良県指定伝統工芸品

原材料クワ科の楮。国内産楮を使用し、地元特産の「白土」を混入し伝統的製法で漉かれた表具用手漉き和紙、強靱で長期の保存に耐える。美栖紙に比べやや厚いが、風合い・質感共に軟らかさがある。古糊と合わせて使用する。

総裏紙、上巻き絹の裏打ち紙に使用。

IX. 作業期間

自・平成30年9月25日

至・平成31年1月31日

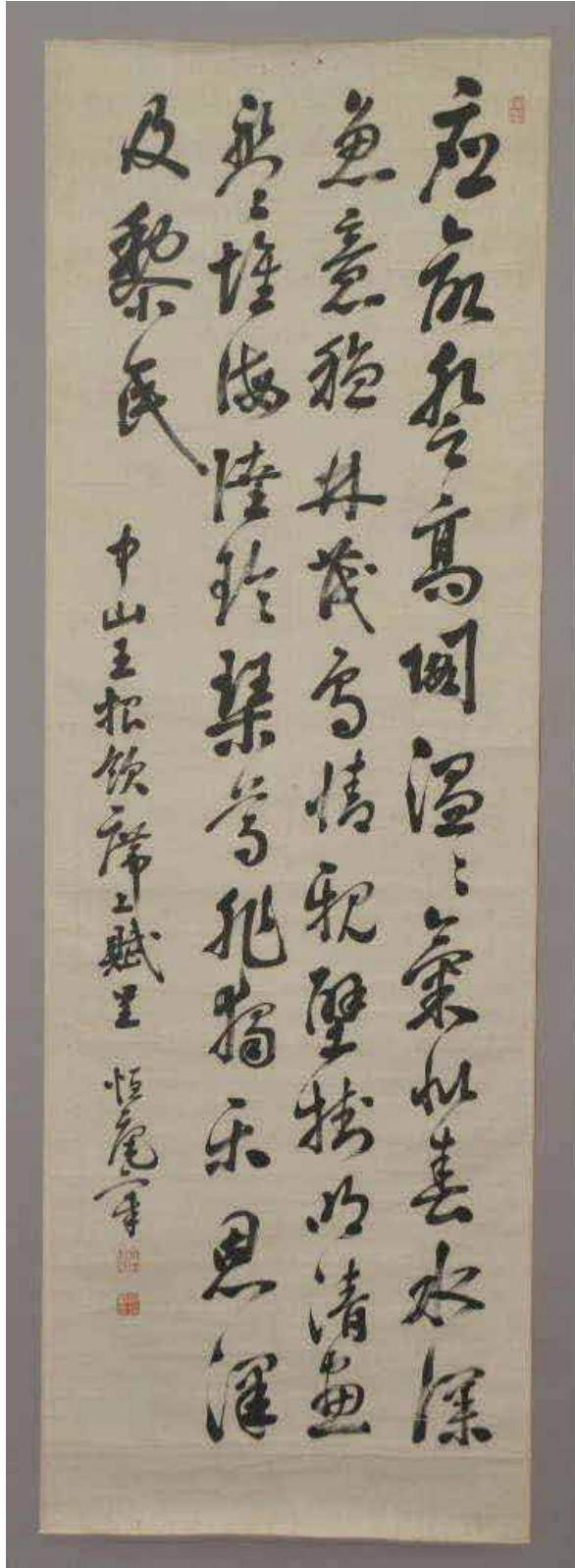
X. 作業場所

沖縄県うるま市石川 2738-11-2F

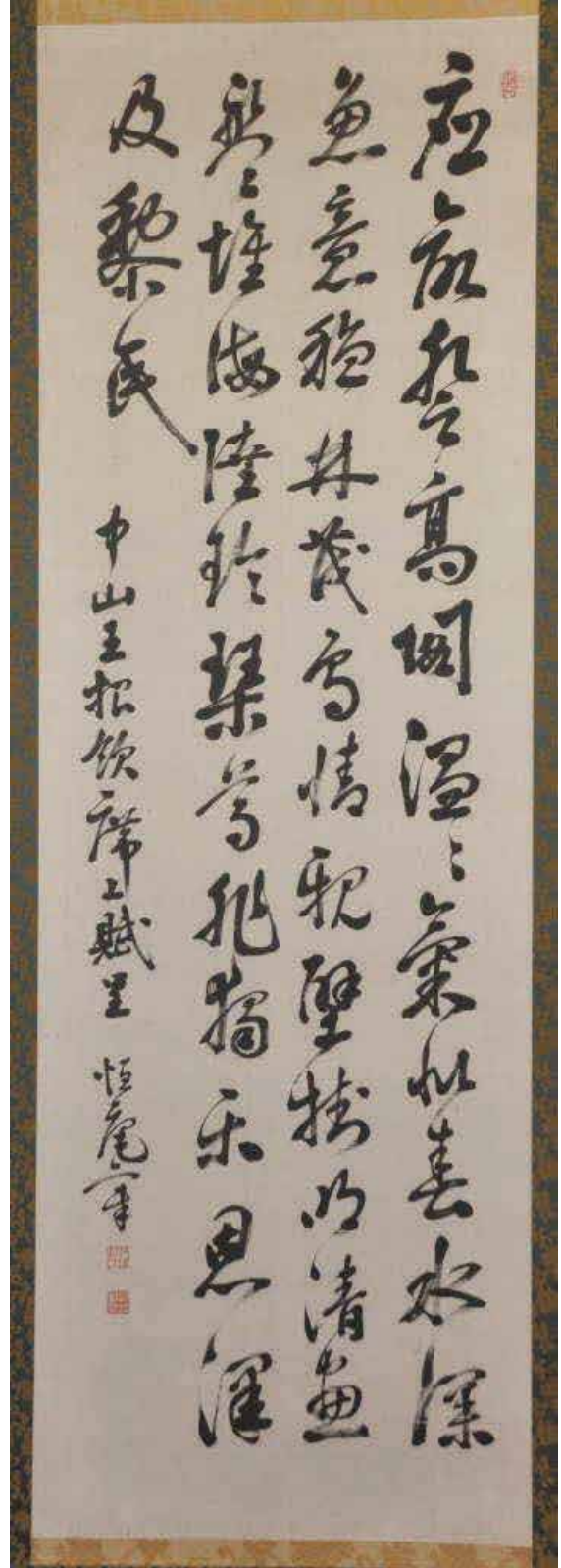
石川堂 當間巧

XI. 修復写真

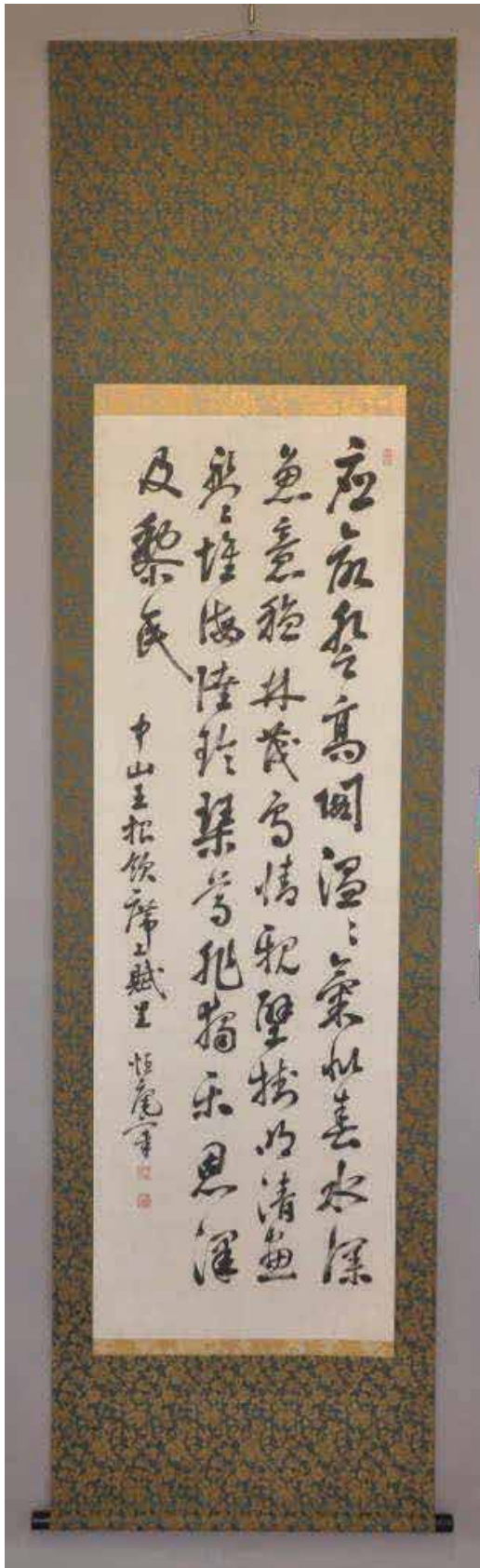
修復前 本紙全図



修復後 本紙全図



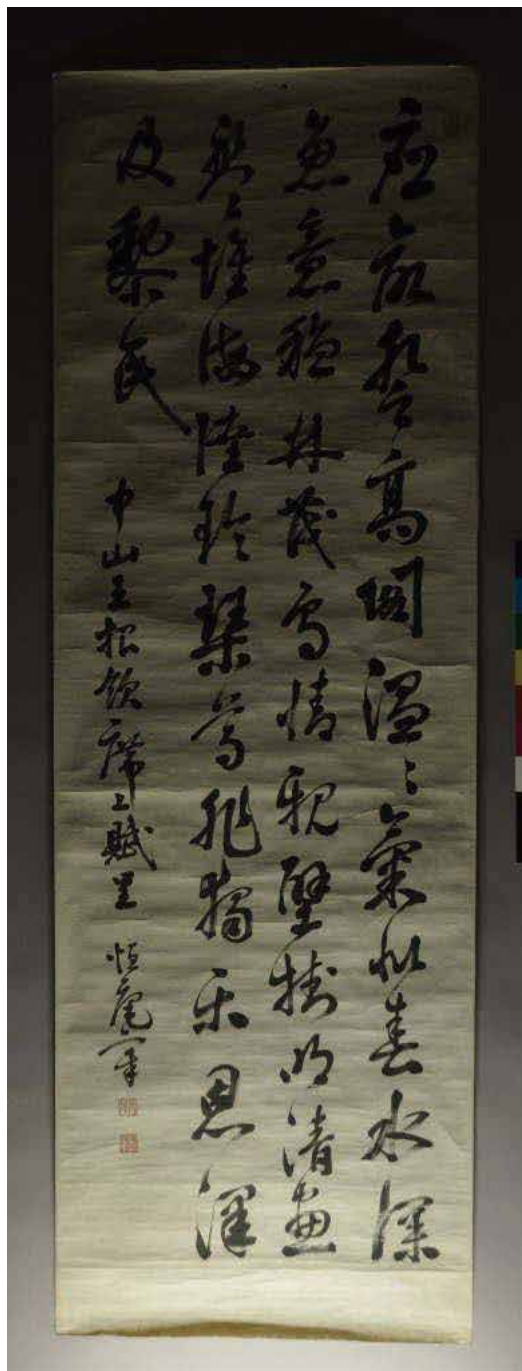
修復後 作品全圖



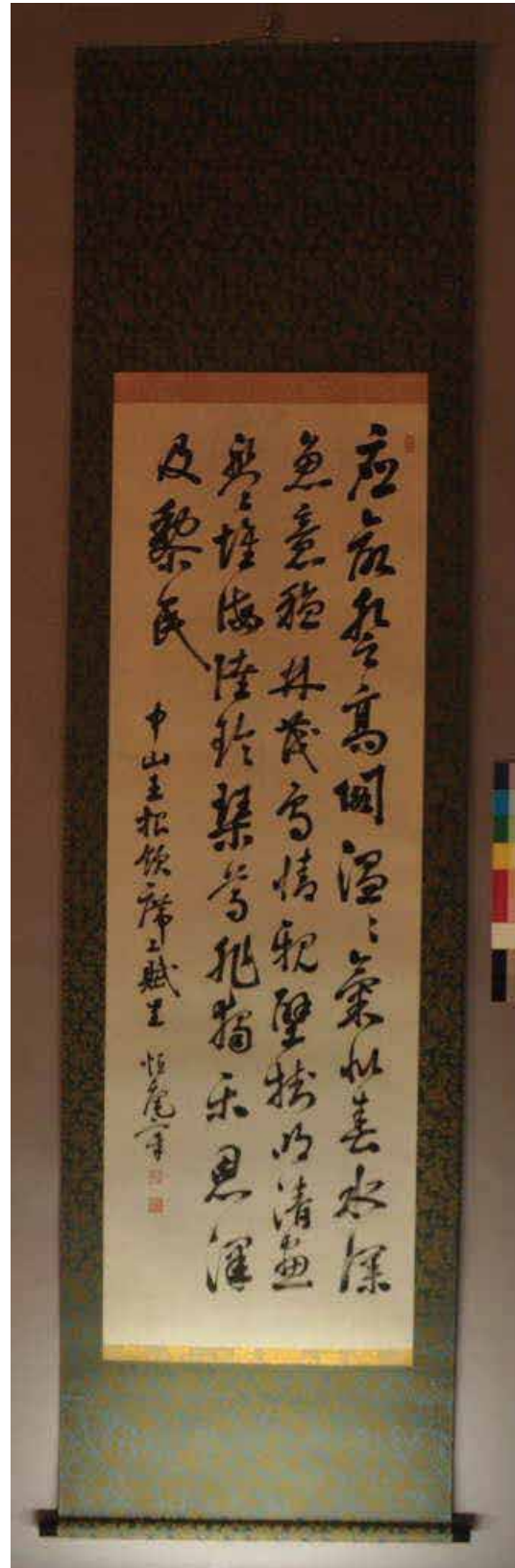
修復後 作品裏面



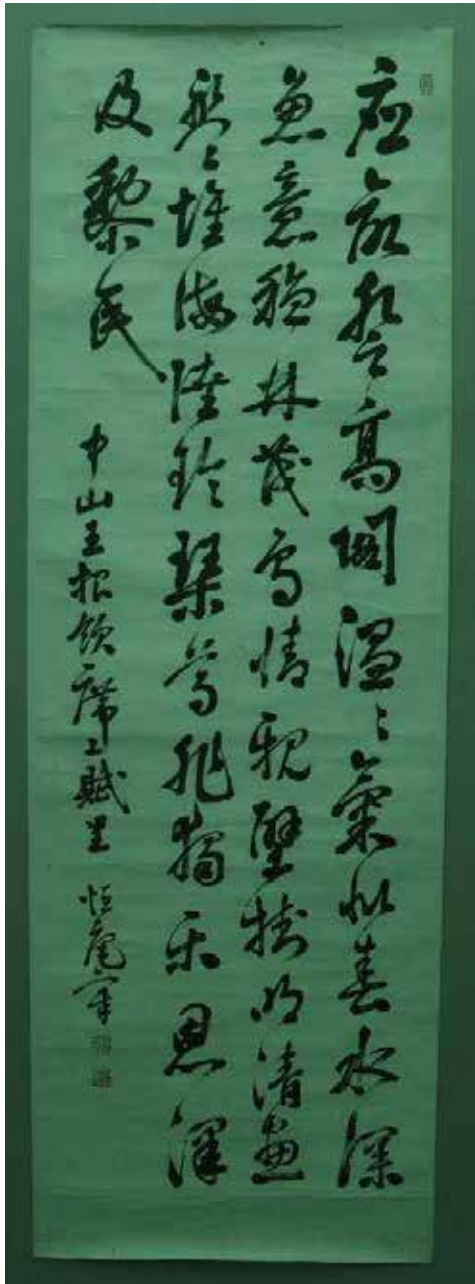
修復前 本紙全図 斜光線写真



修復後 作品全図 斜光線写真

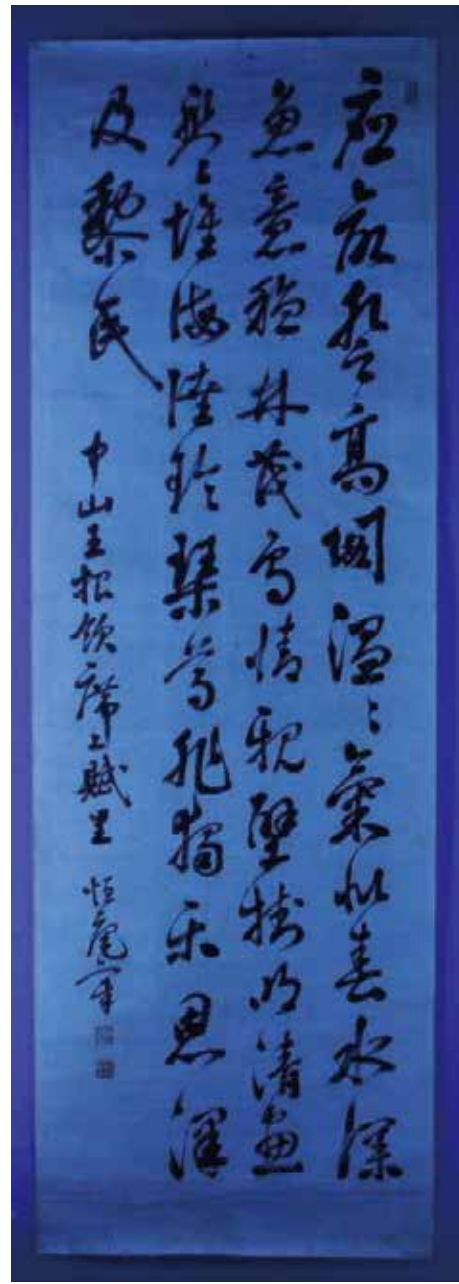


赤外線写真



修復前 本紙全図 赤外線写真

紫外線蛍光写真



修復前 本紙全図 紫外線蛍光写真

修復後 桐太卷添軸桐印籠箱



修復後 桐太卷添軸芯に作品を巻いて収めた様子

